

今回で第19回目になる世界石油会議が2008年6月29日から7月3日までの5日間、スペインのマドリッドで開催された。参加者は約4300名で、前回のヨハネスブルグ（南アフリカ）での約3500名を大きく上回った。日本からも97名が参加し、前回はごく少数の参加者で、「日本は世界石油会議をボイコットしているのか」と言われたそうだが（兼子、ペトロテック29巻65-70頁）、今回は大変盛況だった。日本国内委員会の活動が本格的に再開したことを国際的にアピールできたと確信する。渡会長の世界石油会議にかける意気込みのお陰である。

原油価格が高騰する中での開催であったこともあり、産油国・産ガス国の意気込みは高かった。超重質油、GTL、LNG への関心も高く、また地球環境問題や開催地がヨーロッパであったこともあってかバイオ燃料にもかなりの関心がはらわれていた。

全体会議（Plenary）では、パネル討論形式で、石油・ガスのエネルギー問題、環境問題が包括的に取り上げられた。ファン・カルロス一世スペイン国王をはじめとした各国・有力企業の要人がパネラーとして参加しており、世界情勢や技術のトレンドを知るのに有意義な企画であった。

テクニカルプログラムは4つのブロックからなり、同時並行して開催された。それぞれのブロックにタイムリーな話題を取り上げた基調講演（BP）があり、議論された。続いて、いくつかのフォーラム（F）に分かれて発表と議論が展開された。そのほかにもラウンドテーブル（RT）やスペシャルセッション（SP）が並列的に開かれており、どこに参加するかを選択に困るほどであった。極めて広範囲な分野を扱うために限られた開催期間では止むを得ない設定であった。

それぞれの分野では、それなりに技術の進歩、新しい展開があったものと思われる。しかし、今日の情報化社会にあっては、情報収集に国際会議の果たす役割は決して大きくはない。それよりも、これだけの各国要人、企業経営者や技術者が参加している会議では、異文化間コミュニケーションの方が遥かに重要な意義を有するであろう。その観点からも、日本から97名の参加者があったことの意義はきわめて大きい。

今回は、国内委員会の立て直しが昨年10月と出遅れたこともあって、日本からの発表は2件であった（全体では約600件）。本国際会議で発表された内容に照らしても、わが国の石油・ガス産業には環境や省エネ面で優れた技術が多数あるのだから、次回のカタール・ドーハ大会では多数の論文発表を期待したい。産油国・産ガス国に大いにアピールし、わが国の技術への認識を深めてもらい、資源外交の一環としても生かしていくべきであろう。

会期中に開催された評議会において、2011年開催のカタール・ドーハ大会のプログラム委員会委員に山浦専務理事（石連）が立候補して選出された。日本国内委員会としても積極的な協力を約束したことになる。これまでの世界石油会議に参加した方たちもおられるが、大多数は今回初めての参加であった。多数の方々に会議の雰囲気、運営などの情報を得ていただいたことは成功だった。今後の国内委員会の活動に積極的に協力していただきたい。

最後に、今回は急な参加決定であったにもかかわらず、短期間で周到な準備をされた事務局の努力に敬意を表し、感謝申し上げる。

閉会にあたり

副会長 相岡雅俊

今回の世界石油会議 WPC 第 19 回マドリッド大会は、” 過渡期の世界 : 持続可能な成長のためのエネルギー供給” をテーマに開催されたわけですが、25 カ国のエネルギー大臣、OPEC・IEA の首脳、NOC・IOC の CEO をはじめとした石油関連企業関係者、並びにメディア関係者を含め約 4,300 名の参加があったと報告されています。足許での不透明な石油情勢、就中、天井知らずの油価高騰という状況の中で、今回のマドリッド大会は、世界の石油エネルギー関連産業に携わる全てのセクターにとり、それぞれが将来展望を探るにおいて、極めて時宜に叶った機会提供であったことが、参加者の顔ぶれや数からして明らかだったと思います。

さて、今回のマドリッド大会においてはそのテーマに即して、①地球温暖化対策とそれに伴う炭素・温室効果ガス排出に関する責任、②産油国と消費国間の対話の重要性、③持続的発展のための CSR 活動、④高油価対策と需給バランス、⑤埋蔵量確保ーピークオイルからプラトーオイルへーのための技術革新等が、各論のイシューとしてフォーラム、セッションで頻繁に取り上げられておりました。その見地から油価がバレル当り 10 ドルを割りこまんとしていた一昔前を振り返りますと、例えば 2000 年のカルガリー大会においては” 世界的な発展のための石油 : 価値創造のための人・ビジネス・技術のネットワーク” がテーマに据えられ、各論の立場からは停滞気味の世界の石油探鉱・開発をどう活性化すべきかとの議論が盛んに交わされておりまして、今回のマドリッド大会と同様に世界の持続的成長のためのエネルギー確保といった総論的な問題意識は通底していたものの、それを実現すべき具体的な切り口については大きく様相を違えていました。このことは、高々この 10 年の間に、世界の石油エネルギー産業及びその周辺の事業環境にとっては、現実の取り組みや方策の面から劇的とも言える大きな変化が生じたことを示すものだと思いますが、産油国に出向かなければならない石油企業の立場からそうした変化を受け止めるとすれば、BP の Tony Hayward CEO の発言にもあった” 急速に増加する石油需要を満たすためには、世界の石油企業は埋蔵量と生産量のオーナーシップを求める過去のモデルから脱して、産油国国営石油との新たな協力関係を築いていくべきだ” という一言に尽きるのだらうと思います。持続可能な成長のためのエネルギー供給を確かなものとするためには、産油国との新しい関係構築が鍵となるこの指摘は、マドリッド大会において参加者全員が感じさせられたことであったと思いますが、展示会場に櫛比する産油国国営石油の展示ブースは、メジャーのブースをも駆逐するような勢いを誇り、まさに時代の潮目が変わりつつあることを直截に物語っているかのようでもありました。マドリッド大会はその全体を通し、テーマに謳う “過渡期の世界” という言葉を実感として再認識させるものであったと思います。

今回の大会の全体テーマについては、確かな現状認識の上に立って、石油産業が今後行動すべき大きな方向性を明確にしたという点で的を射たものであったと思いますが、同テーマをより個別、具体的に掘り下げるフォーラム等の内容には、聊かの不満が残りました。講演全般に亘り、登壇者のバックグラウンドが上流から下流、更には産業マネージメント分野までと幅広かったため、プレゼンテーション内容は必然的に総花的で拡散したものとなり、深い意見交換という点で、自ずと物足りなさが残りました。よりの的を絞ったテーマ選択と、それに相応しい専門家の糾合による議論の充実化が、次回大会の課題となったとの印象でした。

ところで、WPC の日本国内委員会は暫らくの間活動を休止していたわけですが、今回の再編を契機に、マドリッド大会においては日本国内委員会の展示ブース開設、WPC 副会長夫妻や田中 IEA 事務局長、英国・ウルグアイ国内委員会の委員の皆様を招待した日本国内委員会主催のレセプションの開催など、再生なった日本国内委員会を十分にアピールすることができたかと思います。再編着手から非常に短い時間で、今般の運営にまでもっていくことができたことは、偏に渡会長の陣頭指揮のもと、事務局の皆様方による奮闘努力があったればこそであり、ご尽力に対して深い敬意を申し上げたいと思います。また、日本国内委員会再編の趣旨をご理解賜り、積極的な対応を図って頂いた約 100 名の参加者の皆様に対しても、併せて、感謝を申し上げたいと思います。

次回の WPC は 2011 年のドーハ大会になるわけですが、山浦専務理事がプログラム委員会委員に選任されるなど、日本国内委員会としては、その再生をうけて前広な対応を進めることができていると思います。ドーハ大会においても地球環境問題、産油国への貢献、企業の社会的責任等がマドリッド大会と同様に大会メッセージの基調をなすものと考えられますが、幸いにも日本国内委員会は多様な分野を包括的に取り込んだ組織建てになっており、各分野を有機的に結合することで、そうした全方位的な課題に対し真正面から取り組める強みを持っていると思います。日本国内委員会として、ドーハにおいて、世界への日本発メッセージを発信すべく、今後組織的な準備を進めていく必要性があるかと思います。

本日の報告会で、WPC 日本国内委員会のマドリッド大会に関する活動は一段落するわけですが、最後に改めて国内委員会参加各社の皆様と日本国内委員会事務局の皆様に対し御礼を申し上げ、閉会の挨拶と致します。

以上

世界石油会議スペイン大会 刊行物リスト(含むDVD & CD)

(1)印刷物

議事関連

19th WORLD PETROLEUM CONGRESS OFFICIAL PROGRAMME

(大会全般のプログラム)

TECHNICAL PROGRAMME OFFICIAL GUIDELINES

(大会公式技術プログラム)

ABSTRACT BOOK

(セッション毎の議長、著者、発言者、概要)

Fundamentals of the Global Oil and Gas Industry 2008

(世界石油会議でまとめた石油・ガス産業の基本2008年版)

Working Paper 6/2008

(現エネルギー状況に関わるプレゼンテーション)

OIL, GAS, ENERGY

a plural view, a calm look

(エネルギーの将来についての分析)

World Petroleum Council 1933-2008

(世界石油会議75年の回顧録)

World Gas Map 2008 Edition (PETROLEUM ECONOMIST発行)

(世界のガス地図2008年版)

Oil & Gas Map of Western, Central & Eastern Europe 2008 Edition

(PETROLEUM ECONOMIST発行)

(ヨーロッパの石油・ガス地図2008年版)

Energy Maps of Africa 2008 Edition (PETROLEUM ECONOMIST発行)

(アフリカのエネルギー地図2008年版)

会場関連

Miniprogramme

(会場地図、プログラム、展示場、シャトルバス、ツアー案内)

EXHIBITION CATALOGUE

(展示場でブースを出展した企業・団体の紹介)

EXHIBITION PLAN

(ブース配置図)

次期カタール大会

QATAR Heart of the Arabian Gulf

(カタールの紹介)

WELCOME State of Qatar

(カタールのパビリオン紹介)

(2)DVD

Proceedings of 19th World Petroleum Congress

(第19回スペイン大会公式議事録)

QATAR

(カタールの紹介)

(3)CD

Fundamentals of the Global Oil and Gas Industry 2008

(世界石油会議でまとめた同題名の内容、及びGLTが含まれている)

Preprints CD Rom of the 19th World Petroleum Congress

19th WORLD PETROLEUM CONGRESS

(各セッションの配布資料)

上記刊行物(含むDVD)は、世界石油会議日本国内委員会(石油連盟内)で保存しております。
 (Proceedings of 19th World Petroleum Congress(DVD)は、2008年10月に発刊、購入予定。
 これ以外は、世界石油会議スペイン大会会場で参加者へ配布されたものです。)

第19回世界石油会議 マドリード大会プログラム
(2008年6月29日～7月3日)

補足 2

構成: 7つの全体講演、4つのブロック(上流部門、下流部門及び石油化学、天然ガス及び再生可能エネルギー、産業マネジメント)、各ブロック別に基調講演計12、ラウンドテーブル計12、フォーラム計23、7つのスペシャルセッション
ソーシャルイベント: 6月29日(日) 20:00～ オープニング・ディナー、7月1日(火) 20:30～スパニッシュ・ナイト、7月3日(木) 17:45頃～閉会式(デュハースト賞講演後すぐ)

6月29日(日)	6月30日(月)
8:30	Plenary1 全体講演 持続可能な成長に向けてのエネルギー供給: ヨーロッパからの展望
8:45	
9:00	1.EUエネルギー委員長
9:15	2.Repsol YPF(スペイン/アルゼンチン)
9:30	3.BP(英国)
9:45	4.Shell(オランダ)
10:00	5.CEPSA(スペイン: 石油、探鉱開発、精製、販売、石化製品製造)
10:15	6.Rosneft(ロシア: 国有の石油開発・生産・精製・販売会社)
10:30	休憩(10:30～10:45)
10:45	ポスタープラザ
11:00	BP1 基調講演 過去数十年における大規模炭化水素資源発見からの教訓
11:15	BP4 基調講演 既存製油所の設備増強 Vs 新設製油所
11:30	BP7 基調講演 再生可能エネルギーの役割
11:45	BP10 基調講演 大災害リスクの担保(リスクマネジメント)
12:00	RT1 ラウンドテーブル 第3の1兆STB埋蔵油発見への挑戦
12:15	休憩(11:45～12:00)
12:30	Plenary2 全体講演 開会式、WPC優秀賞授与
12:45	スペイン国王 ファン・カルロス I 世 陛下 ランディ・ゴッセン WPC 会長及びスペイン政府・組織委員会代表他 技術開発と社会的責任に対するWPC特別賞及び青年発表最優秀賞の授与
13:00	
13:15	13:15～
13:30	公式ランチ WPC優秀表彰
13:45	石油産業における技術開発又は社会的責任に関し顕著な功績のあった企業・研究所その他公的・私的組織に対して授与される。 エクソンモービル会長
14:00	
14:15	
14:30	世界石油会議 評議会
14:45	
15:00	1. WPC役員選任
15:15	2. CPCメンバー選任(11名)
15:30	3. YCメンバー登録(マドリード大会時35歳未満のメンバー国推薦者、3年)
15:45	
16:00	
16:15	
16:30	ポスタープラザ
16:45	休憩(16:30～16:45)
17:00	
17:15	
17:30	F1 フォーラム ニューフロンティア開発
17:45	F2 フォーラム 成熟油田からの石油・ガス回収増大
18:00	F8 フォーラム ガソリン・軽油をリバランスする新プロセス
18:15	F13 フォーラム 非在来型ガス(CBM・ハイドレート・石炭/残油ガス化等)
18:30	F14 フォーラム 再生可能エネルギー(風・太陽)の技術動向
18:45	F20 フォーラム 排出権取引市場の挑戦と機会
19:00	
19:15	
19:30	
19:45	20:00～
20:00	
20:15	
20:30	
20:45	オープニングディナー
21:00	日本国内委員会主催ディナーパーティー 於: Castillo de Vinuelas
21:15	
21:30	

全体講演	「社会的責任を満足しつつ持続可能な成長に必要なエネルギーの継続的供給を図る」上で直面する
上流部門	このブロックの基調講演、討論会では成熟油田からの石油・ガス回収、開発最前線、非在来型石油
下流部門	下流部門及び石油化学: このブロックではエネルギー効率、デジタル化時代の製油所最適化、
天然ガス・再生エネルギー部門	このブロックでは天然ガス(新供給源、輸送、地域的需給バランス)、GTL及び再生可能エネルギー
産業マネジメント	産業マネジメント: 持続可能性報告、排出権取引市場、石油ガス産業の健康と安全管理、CO2
行政・政府セッション	石油ガス産業を有する国、或いは新興経済圏に属する国その他に割り当てられ、政府・行政機関は
スペシャルセッション	地球規模の広がり関連性をもつ特定の課題について関係者、専門家が参加するセッション
ソーシャルイベント・公式ランチ	初日WPC組織委員会主催で企業・団体に対し特別賞を授与。2日目以降は社会的責任、OPECとIEA

第19回世界石油会議 マドリード大会プログラム
(2008年6月29日～7月3日)

補足 2

7月1日(火)					
8:30	Plenary3 全体講演				
8:45	供給可能性についての課題:供給確保と需要の展望				
9:00					
9:15	CNOOC会長(中国)、				
9:30	PEMEX上級役員(メキシコ)、				
9:45	ExxonMobil会長、				
10:00	CNE社長(スペイン)、				
10:15	Total CEO(仏)、				
10:30	エネルギー省(ロシア)				
10:30	ポスタープラザ	休憩(10:30～10:45)			
10:45		MS アルジェリア、キューバ、カザフスタン、ナイジェリア、ロシア、ベネズエラ			SP2 スペシャルセッション 石油生産者とサービス 会社の協力
11:00		行政・政府セッション			
11:15		休憩(11:45～12:00)			
11:30					
11:45					
12:00					
12:15		BP2 基調講演 石油・ガス資源の評価	BP5 基調講演 アジアにおける自動車 燃料品質戦略	BP8 基調講演 GTL技術	RT10 ラウンドテーブル 石油産業の環境対策
12:30					RT10 ラウンドテーブル 石油・ガスの地政学
12:45					
13:00					
13:15	公式ランチ 社会的責任				
13:30					
13:45	ランディ・ゴッセン WPC 会長				
14:00	国連 グローバルレインバクト部長				
14:15					
14:30	ポスタープラザ	F3 フォーラム 先進探鉱・開発技術の 適用	F9 フォーラム 深度脱炭の最新プロセ ス	F15 フォーラム バイオ燃料の開発動向	F21 フォーラム 石油・ガス産業の健康 安全環境上の課題 (IPIECA)
14:45			Posters: 千代田化工建設株式 会社(Dr. Shinichi Inoue)		SP3 スペシャルセッション 社会的責任と人権
15:00					
15:15					
15:30					
15:45					
16:00					
16:15					
16:30					
16:45					
17:00					
17:15					
17:30					
17:45					
18:00					
18:15					
18:30					
18:45					
19:00					
19:15					
19:30					
19:45					
20:00					
20:15	20:30～				
20:30					
20:45					
21:00	スパニッシュナイト				
21:15					
21:30					

主要課題について石油会社、政府機関等の専門家・高官が講演する。

資源、超深度貯留層のモニタリング等最新の探鉱開発状況について討議

残油転換プロセス、製油所におけるディーゼル/ガソリンのリバランス等について討議

(風力、太陽光)について討議

固定化と排出権取引、次世代労働力の確保等について討議

自国石油産業の展望、資源量、インフラ状況、法令の枠組み等について概観する。

持続可能性について講演

第19回世界石油会議 マドリード大会プログラム
(2008年6月29日～7月3日)

補足 2

構成: 7つの全体講演、4つのブロック(上流部門、下流部門及び石油化学、天然ガス及び再生可能エネルギー、産業マネジメント)、各ブロック別に基調講演計12、ラウンドテーブル計12、フォーラム計23、7つのスペシャルセッション
ソーシャルイベント: 6月29日(日)20:00～ オープニング・ディナー、7月1日(火)20:30～スペインッシュ・ナイト、7月3日(木)17:45頃～閉会式(デューハースト賞講演後すぐ)

7月2日(水)									
8:30	Plenary4 全体講演								
8:45	天然ガス: 台頭する地球規模の商品								
9:00	カタール国「次回第20回石油会議(2011年)開催国」 第一副首相兼エネルギー工業相、Gas and Power上級取締役 (Shell International), Sonatrach社長								
9:15									
9:30	Plenary5 全体講演								
9:45	石油・ガス産業で進む環境負荷の少ない資源利用								
10:00									
10:15	Nexen Inc. 会長、Harvard University 地球エネルギー政策 教授、StatoilHydro社長、CEO								
10:30	ポスタープラザ	休憩(10:30～10:45)							
10:45		MS アンゴラ、イラン、モロッコ、オランダ、英国、ウルグアイ 行政・政府セッション							
11:00									
11:15									
11:30		SP4 スペシャルセッション 女性の参加							
11:45		休憩(11:45～12:00)							
12:00									
12:15		BP3 基調講演 探鉱開発最新技術	BP6 基調講演 製油所のエネルギー効率改善の新たなアプローチ	BP9 基調講演 ガス輸送	BP12 基調講演 国営石油会社と国際石油会社-競争か協調か-				
12:30					RT2 ラウンドテーブル 埋蔵量と資源				
12:45									
13:00									
13:15	公式ランチ OPEC/IEA講演 (13:00～)								
13:30									
13:45	IEA 田中事務総長								
14:00	国際エネルギーフォーラム事務局長 エル・バドリ OPEC事務局長								
14:15									
14:30	ポスタープラザ	F4 フォーラム 非在来型石油資源	F10 フォーラム 製油所における非在来型石油・フィードストックの利用	F16 フォーラム 天然ガスの輸送部門利用	F22 フォーラム エネルギー産業の人材確保(今後10年間の退職)				
14:45					RT4 ラウンドテーブル 自動車燃料品質(政府と産業界の意見)				
15:00									
15:15									
15:30					RT5 ラウンドテーブル バイオ燃料と石油製品—競争か補充か—				
15:45		休憩(16:30～16:45)							
16:00									
16:15									
16:30									
16:45									
17:00	ポスタープラザ	F5 フォーラム 埋蔵資源モニタリング	F11 フォーラム 新時代の製油所コントロール	F17 フォーラム 地域ガス需給バランス	F23 フォーラム 自然災害影響への対策				
17:15					RT9 ラウンドテーブル コールベッドメタン(CBM): 環境面の制約				
17:30									
17:45									
18:00					SP5 スペシャルセッション ガス市場の統合				
18:15									
18:30									
18:45									
19:00									
19:15									
19:30									
19:45									
20:00									
20:15									
20:30									
20:45									
21:00									
21:15									
21:30									
	全体講演.....「社会的責任を満足しつつ持続可能な成長に必要なエネルギーの								
	上流部門.....このブロックの基調講演、討論会では成熟油田からの石油・ガス回収、								
	下流部門.....下流部門及び石油化学: このブロックではエネルギー効率、デジタル化								
	天然ガス・再生エネルギー部門.....このブロックでは天然ガス(新供給源、輸送、地域的需給バランス)、GTL								
	産業マネジメント.....産業マネジメント: 持続可能性報告、排出権取引市場、石油ガス産業の								
	行政・政府セッション.....石油ガス産業を有する国、或いは新興経済圏に属する国その他に割り								
	スペシャルセッション.....地球規模の広がり関連性をもつ特定の課題について関係者、専門家が								
	ソーシャルイベント・公式ランチ.....初日WPC組織委員会主催で企業・団体に対し特別賞を授与。2日目以降								

第19回世界石油会議 マドリッド大会プログラム
(2008年6月29日～7月3日)

補足 2

7月3日(木)					
8:30	Plenary6 全体講演				
8:45	未開発油田へのアクセスとインフラ投資				
9:00	基調講演: Chevron上級副社長、インド石油天然ガス省長官、Petrobras社長				
9:15					
9:30	Plenary7 全体講演				
9:45	石油・ガス産業の社会的位置づけ				
10:00	ConocoPhillips会長兼社長、CEO、Schlumberger会長、CEO、Transparency International 会長				
10:15					
10:30	ポスタープラザ	休憩(10:30～10:45)			
10:45					
11:00		MS カナダ、コロンビア、フランス、インド、カタール、サウジアラビア 行政・政府セッション			
11:15		SP6 スペシャルセッション 産業の持続的発展のためのファイナンス			
11:30	ポスタープラザ	休憩(11:45～12:00)			
11:45					
12:00		RT3 ラウンドテーブル 超深度石油資源開発	RT6 ラウンドテーブル 製油所の安全管理	RT8 ラウンドテーブル 欧州のガス供給安全保障	RT11 ラウンドテーブル 京都プロトコル後の展望
12:15					BP11 基調講演 透明性(石油・ガス産出 国のイニシアティブ)
12:30					
12:45					
13:00	公式ランチ: 持続可能性				
13:15					
13:30	ランディ・ゴッセン WPC 会長				
13:45	「国連気候変動」の役員				
14:00					
14:15					
14:30	ポスタープラザ	F6 フォーラム カーボネイト(炭酸塩 岩)の資源量	F12 フォーラム オレフィン製造法の進展	F18 フォーラム 未利用のガス資源利用 (GTL、LNG)	F19 フォーラム 持続可能性の最善実行 策
14:45					SP7 スペシャルセッション 青年
15:00					
15:15					
15:30					
15:45					
16:00					
16:15					
16:30					
16:45	17:00～	デューハーストアワード WPC創設者の名を冠した賞で、石油産業で優れた科学技術的業績をあげた個人に与えられる ナイミ・サウジアラビア石油鉱物資源大臣によるデューハースト賞受賞記念講演 ナイミ・サウジアラビア 石油鉱業資源大臣 ランディ・ゴッセン WPC 会長			
17:00					
17:15					
17:30					
17:45	17:45～	閉会式 ホスト国がスペインから第20回WPC(2011年)開催国カタールに公式に移行 ランディ・ゴッセン WPC 会長 J・セグレー SPCC会長 第20回 カタール代表			
18:00					
18:15					
18:30					
18:45					
19:00					
19:15					
19:30					
19:45					
20:00					
20:15					
20:30					
20:45					
21:00					
21:15					
21:30					

継続的供給を図る上で直面する主要課題について石油会社、政府機関等の専門家・高官が講演する。

開発最前線、非在来型石油資源、超深度貯留層のモニタリング等最新の探鉱開発状況について討議

時代の製油所最適化、残油転換プロセス、製油所におけるディーゼル/ガソリンのリバランス等について討議

及び再生可能エネルギー(風力、太陽光)について討議

健康と安全管理、CO2固定化と排出権取引、次世代労働力の確保等について討議

当てられ、政府・行政機関は自国石油産業の展望、資源量、インフラ状況、法令の枠組み等について概観する。

参加するセッション

は社会的責任、OPECとIEA、持続可能性について講演

NO.	参加人数	氏名	会社名	部署名/役職
1	1	渡 文明	新日本石油株式会社	代表取締役会長
2	1	高橋 章次	新日本石油株式会社	政策室長
3	1	星 尚志	新日本石油株式会社	Nippon Oil Europe Limited 社長
4	1	藤原 佳代	新日本石油株式会社	海外調達部 部長
5	1	楊 泳	新日本石油株式会社	海外調達部製品グループ シニアスタッフ
6	1	安達 博治	新日本石油株式会社	執行役員 製造技術本部 技術部長
7	1	岡崎 肇	新日本石油株式会社	執行役員 研究開発本部 中央技術研究所長
8	1	大野 博	新日本石油精製株式会社	代表取締役社長
9	1	高橋 史朗	新日本石油開発株式会社	常務取締役
10	1	天坊 昭彦	出光興産株式会社	代表取締役社長
11	1	須田 善一	出光興産株式会社	取締役海外部長
12	1	許斐 光明	IDEMITSU INTERNATIONAL(EUROPE) PLC	出光ヨーロッパ社長
13	1	渡部健児	出光興産株式会社	秘書室
14	1	松村 秀登	コスモ石油株式会社	執行役員 技術部長
15	1	川島 幸典	コスモ石油株式会社	技術部 技術グループ
16	1	荒川 健治	株式会社 ジャパンエナジー	代表取締役 副社長執行役員
17	1	佐倉 匡	株式会社 ジャパンエナジー	精製部 技術担当部長
18	1	関屋 文雄	富士石油 株式会社	取締役社長
19	1	江夏 隆	富士石油 株式会社	企画部 理事 企画部長
20	1	猪股 淳	富士石油 株式会社	袖ヶ浦製油所生産技術部長
21	1	藤井 公一郎	三井石油 株式会社	代表取締役社長
22	1	石川 真吾	三井石油 株式会社	取締役 執行役員 精製・需給担当
23	1	相岡 雅俊	帝国石油 株式会社	代表取締役社長
24	1	山本 幸伯	帝国石油 株式会社	理事 石油営業部長
25	1	滝本 俊明	帝国石油 株式会社	海外・大陸橋本部 中南米事業部 主管
26	1	田中 渡	国際石油開発 株式会社	取締役 総務・企画本部 本部長補佐
27	1	中山 茂	CIECO Exploration and Production (UK) Limited	
28	1	河野 博文	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構	理事長
29	1	佐藤 準	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構	プロジェクト推進部部長
30	1	菊池 崇	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構	プロジェクト企画部 審議役
31	1	明吉 研二	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構	プロジェクト企画部 調査役
32	1	横山 正明	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構	ロンドン事務所 所長
33	1	古橋 哲也	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構	プロジェクト企画部 調査役補佐
34	1	小西 祐作	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構	
35	1	佐藤 大地	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構	
36	1	渡邊 朋子	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構	
37	1	田中 厚成	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構	
38	1	佐藤 陽介	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構	
39	1	関 誠夫	千代田化工建設 株式会社	取締役会長
40	1	久保田 隆	千代田化工建設 株式会社	取締役社長
41	1	香田 園	千代田化工建設 株式会社	専務取締役 海外プロジェクト統括
42	1	下野 渉	千代田化工建設 株式会社	海外プロジェクト統括・執行役員
43	1	長坂 勝雄	千代田化工建設 株式会社	海外営業総本部長・第1本部長 豪亜地区営業代表 総支配
44	6	能戸 雅英	千代田化工建設 株式会社	海外営業本部海外営業企画室 企画・管理グループリーダー
45	1	佐原 新	千代田化工建設 株式会社	石油・化学プロジェクト本部 リファイリータスクフォース チームリーダー
46	1	中島 純夫	千代田化工建設 株式会社	技術統括/常務取締役 兼 執行役員
47	1	藤岡 銀治郎	千代田化工建設 株式会社	技術統括 フェロー
48	1	清水 慎一	千代田化工建設 株式会社	技術企画本部 主席技師長
49	1	井上 慎一	千代田化工建設 株式会社	研究開発センター
50	1	大庭 隆政	千代田化工建設 株式会社	プロセス技術本部 技師長
51	1	渋谷 効	千代田化工建設 株式会社	プロセス設計センター/課長
52	1	横井 悟	千代田化工建設 株式会社	常務取締役 国内プロジェクト統括
53	1	山下 栄作	千代田化工建設 株式会社	執行役員 国内プロジェクト副統括 兼 国内営業本部長
54	1	松岡 憲正	千代田化工建設 株式会社	国内営業本部 営業第1部長
55	1	亙理 隆三	千代田化工建設 株式会社	社会・環境室 室長
56	1	竹内 敬介	日揮 株式会社	代表取締役社長
57	1	岩井 龍太郎	日揮 株式会社	経営戦略室 副室長
58	1	橋爪 健	日揮 株式会社	ロンドン副所長
59	1	山田 豊	東洋エンジニアリング 株式会社	取締役社長
60	1	佐藤 弘志	東洋エンジニアリング 株式会社	資源開発部 部長
61	1	若月 健	東洋エンジニアリング 株式会社	専務執行役員 海外営業本部長
62	1	西原 一臣	東洋エンジニアリング 株式会社	専務執行役員 国内事業統括本部長
63	1	宮崎 能成	東洋エンジニアリング 株式会社	
64	1	大曾根 恒	東洋エンジニアリング 株式会社	Toyo-India社長
65	1	真木 浩之	清水建設株式会社	常務執行役員
66	1	本庄 正史	株式会社大林組	代表取締役副社長
67	1	原子 秀明	株式会社山武アドバンスオートメーションカンパニー	営業本部 営業1部 部長
68	1	堀江 昌紀	株式会社山武アドバンスオートメーションカンパニー	営業本部長
69	1	青山 淳	横河電機株式会社	副本部長
70	1	石黒 実	横河電機株式会社	第一アカウント営業部 部長
71	1	皆川 善一	川崎汽船株式会社	常務執行役員 LNG船事業、油槽船事業担当
72	1	久下 豊	川崎汽船株式会社	油槽船グループ長
73	1	板垣 行彦	"K" Line (Europe) Ltd	ENERGY DIVISION MANAGER
74	1	森川 健太郎	東京ガス株式会社	パリ事務所 所長
75	1	広野 正純	東京ガス株式会社	エネルギー・技術グループ 担当副部長
76	1	石黒 千賀子	大阪ガス株式会社	資源事業部 戦略・調査グループ
77	1	水井 聡	双日 株式会社	執行役員エネルギー事業本部長
78	1	今井 健児	Sojitz Global Trading Nigeria Ltd	双日ナイジェリア会社 社長
79	1	戸嶋 良介	双日 株式会社	エネルギー事業本部エネルギートレーディング部
80	1	菊地 英一	早稲田大学	理工学部教授
81	2	藤田 和男	芝浦工業大学	工学マネジメント研究科教授
82	1	亀井 隆徳	財団法人 石油産業活性化センター	常務理事
83	1	小杉 亮二	エネルギー総合推進委員会	専務理事(事務局長兼務)
84	1	廣谷 修	社団法人 石油学会	理事・事務局長
85	1	永田 安彦	財団法人 日本エネルギー経済研究所	戦略・産業ユニット 石油・ガス戦略グループ 研究主幹
86	1	北川 健介	経済産業省 資源エネルギー庁	資源・燃料部長
87	1	保坂 伸	経済産業省 資源エネルギー庁	資源・燃料部石油・天然ガス課長
88	1	金子 絵美	経済産業省 資源エネルギー庁	資源・燃料部政策課
89	1	山浦 純一	世界石油会議 日本国内委員会	専務理事
90	1	浜林 郁郎	世界石油会議 日本国内委員会	事務局次代理
91	1	西垣 憲司	世界石油会議 日本国内委員会	事務局 次長
92	1	西川 輝彦	世界石油会議 日本国内委員会	事務局 次長

参加者数 98

第19回世界石油会議マドリッド大会報告にご協力頂いた皆様

今大会のご報告に際し、下記の会員の皆様に執筆、ご協力を頂きました。

速報版報告書につきましては、大会終了約2週間の後、皆様にお届けする事ができました。

下記の方以外にも、会員、関係者の多くのご協力を賜り無事、今大会の一連の行事を遂行する事ができました。厚く御礼申し上げます。

(敬称略)

報告部門	所属・役職	氏名	備考
全体会議	千代田化工建設株式会社 常務取締役 国内プロジェクト統括	横井 悟	発表者
	千代田化工建設株式会社 技術統括 フェロー	藤間 銀治郎	
石油開発部門	新日本石油開発株式会社 常務取締役	高橋 史朗	発表者
	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構 R&D推進部石油工学研究課	渡邊 朋子	発表者
	帝国石油株式会社 海外・大陸棚本部 中南米事業部 主管	滝本 俊明	発表者
	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構 ロンドン事務所副所長	佐藤 大地	
	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構 技術調査部 探査技術課	小西 祐作	
石油精製部門	新日本石油株式会社 執行役員 製造技術本部 技術部長	安達 博治	発表者
	コスモ石油株式会社 常務執行役員 技術部長	松村 秀登	発表者
	日揮 株式会社 経営戦略室 副室長	岩井 龍太郎	発表者
	コスモ石油株式会社 技術部 技術グループ	川島 幸典	
	千代田化工建設株式会社 研究開発センター 技師長	井上 慎一	
	千代田化工建設株式会社 プロセス技術本部 技師長	大庭 隆政	
	千代田化工建設株式会社 プロセス設計センター 課長	渋谷 効	

報告部門	所属・役職	氏名	備考
石油精製部門	千代田化工建設株式会社 技術統括 フェロー	藤間 銀治郎	
	千代田化工建設株式会社 社会・環境室・室長	亘理 隆三	
天然ガス 再生可能エネルギー	新日本石油株式会社 取締役 執行役員 研究開発本部 中央技術研究所長	岡崎 肇	発表者
	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構 R&D推進部石油工学研究課	渡邊 朋子	発表者
	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構 プロジェクト企画部 調査部 R&D推進部 担当調査役	古幡 哲也	発表者
	大阪ガス株式会社 資源事業部 戦略・調査グループ	石黒 千賀子	
	千代田化工建設株式会社 技術企画本部 主席技師長	清水 慎一	
	千代田化工建設株式会社 社会・環境室・室長	亘理 隆三	
	千代田化工建設株式会社 プロセス設計センター 課長	渋谷 効	
産業マネジメント	千代田化工建設株式会社 社会・環境室・室長	亘理 隆三	発表者
	財団法人日本エネルギー経済研究所 戦略・産業ユニット 国際動向・戦略分析グループ 研究主幹	永田 安彦	発表者
	千代田化工建設株式会社 技術統括 フェロー	藤間 銀治郎	
	千代田化工建設株式会社 石油・化学プロジェクト本部 リファイナリータスクフォース チームリーダー	佐原 新	
展示	千代田化工建設株式会社 海外営業統括 海外営業業務室 室長	細川 晃	発表者

以上

(2008年8月時点)

第 19 回世界石油会議 マドリード大会

日本国内委員会 報告会

報告集

2008 年 8 月

発行 世界石油会議 日本国内委員会

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-9-4

経団連会館 4 階（石油連盟内）

TEL 03-3279-3170



World Petroleum Council - 20th WPC

<http://www.20wpc.com/>

Japan National Committee of WPC

<http://www.wpcjnc.jp/>